



マンサク

氷点下の空に黄金の光の束



る。「寒いほど花のつきがい

いんです」。レインさんはイ

ギリス随一のコレクション

を自慢げに見せてくれた。



個々の花は、割れたくす

だまから何本もの細かい糸が

飛び出したような奇妙な形

をしている。しかし無数の

花が木全体を覆つと、黄金

色の光の束を周囲に放つ。

マンサクの花は、凍てつ

くイングランドの空に鋭

い香りを放つ

(ヴィタ・サックヴィル

ウエスト「ザ・ガーデン

より)

中国と日本が姿を現し、珍

しい花や木を多数秘めた

「植物大国」であることがわ

かると、大英帝国から多数

のプラントハンター(植物

採集者)が派遣された。マ

ンサクはイギリスで中国産

と日本産がかけ合わされ、

多くの新品種が生まれた。

約1万年前まで続いた氷

河期によって植物相が壊滅

的に破壊されたイギリス

は、海外の植物を懸命に収

集し、改良することで「園芸

大国」になった。マンサクは

その歴史の象徴といえる。

(ロンドン在住ジャーナリ

スト、写真も)

厳しい寒さに見舞われた
2月の朝、ロンドンの東、
ケント州で植木卸売業を営
むクリス・レインさんの苗
木場を訪ねると、500本
を越すマンサク(学名ハマ
メリス)の花がみごとに満
開であった。

氷点下の冬空を仰ぎ、ど
の木もこぼれんばかりに黄
や紅色の花を咲かせてい

原産は北米と日本、中国。
18世紀にまず北米産が持ち
込まれたが、19世紀になっ
て中国と日本が「開国」す
ると、花がより大きく豪華
な東洋産は瞬く間に北米産
を凌駕した。

べールに覆われた極東の